



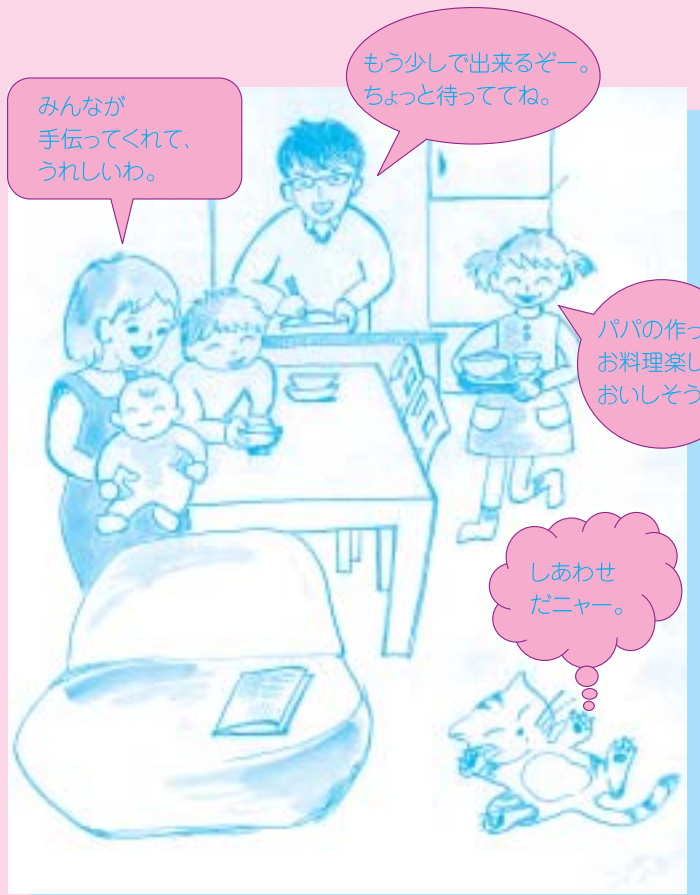
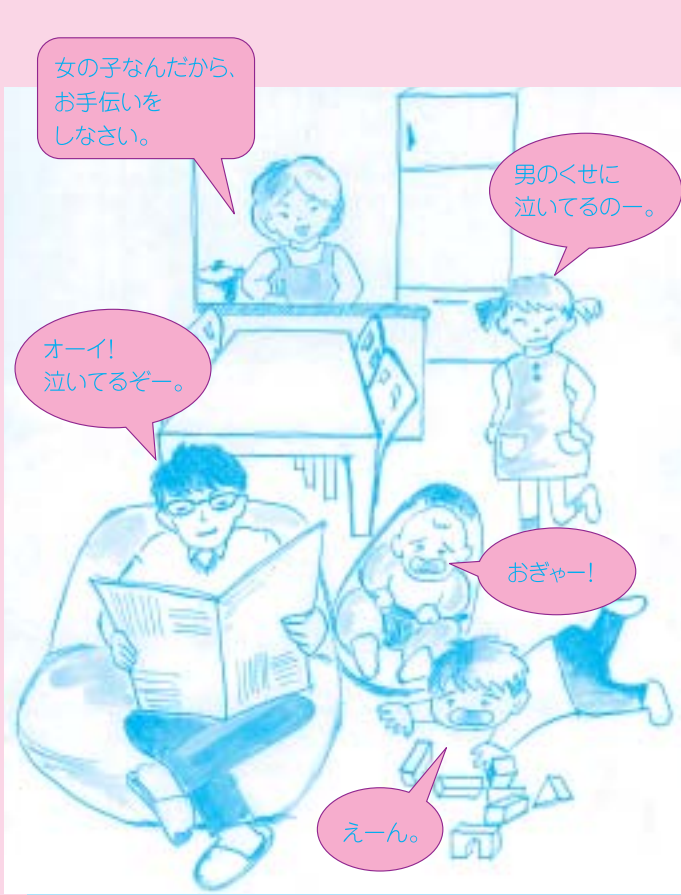
さんかく

女性(Female)と男性(Male)が共に支えあい、対等な立場で社会(Society)を形成することを願って!!

2007年2月15日

第3号

男女共同参画は私たちの生活の様々な場面で関わりがあります。
下の絵はある家庭の様子です。左右の絵を比べて見て、あなたはどんな感想を持ちますか？



いかがでしたか？「女は〇〇」「男は△△」という「性別」にとらわれた考え方が、日常生活の中に根強く残っていると思いませんか？決して「〇〇らしく」がいけないわけではありません。女性であること、男性であることの特性は変わらないものでしょうし、ある意味大切なことでしょう。ただ、「男は仕事、女は家事・育児」など社会的、文化的につくられた固定的な性別役割分担にとらわれて自分の生き方を制限するよりも、自由な生き方を選ぶのではないのでしょうか。

* 特集 *

「あなたは少子化をどう受け止めますか」 ～五所川原市民は「少子化」について どう考えているの？～



c・o・n・t・e・n・t・s

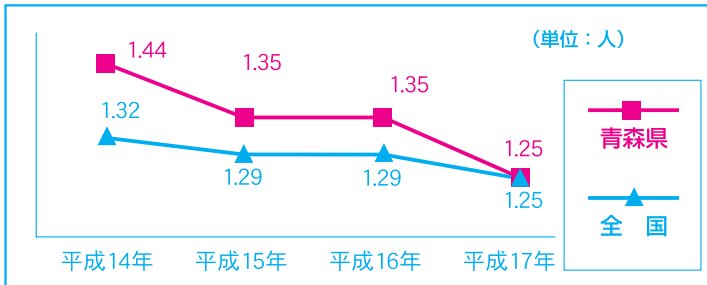
- おじゃましまーす！
インタビュー 歯科医師 若生 美智代さん
- おすすめBOOKS
『産まない理由 今まで誰にも言えなかった私たちのホンネ』
『父親だからできること 威張らない、媚びない、子育ての秘訣』

特集 あなたは少子化をどう受け止めますか

我が国の年間出生数は1973年以降減少が続いており、少子化により引き起こされる様々な問題により、日本の将来が懸念されています。

●少子化はどの程度進んでいるの？

合計特殊出生率の推移



資料：住民基本台帳人口動態統計より

●『合計特殊出生率』って良く聞くけど、どういうことなの？

合計特殊出生率とは、出産可能な年齢を15歳～49歳とし、一人の女性が一生のうちに産む子どもの平均の数を求めたもの。生まれてくる子どもの男女比は男性が若干高い事、出産可能年齢以下で死亡する女性がいることから自然増と自然減の境目は、2.08とされている。

●五所川原市民は少子化の要因についてどう考えてるの？

平成18年五所川原市民アンケート結果より

- ①位 子育て(教育費含む)にお金がかかるから
- ②位 働く女性が増えたから
- ③位 核家族が定着し、夫婦が多くの子どもを望まなくなったから
- ④位 社会的な子育て支援が充分でないから
- ⑤位 価値観の変化(子育てに追われるだけでなく、人生も楽しみたい)
- ⑥位 仕事に支障が生じるから
- ⑦位 精神的、肉体的負担が大きいから

少子化の要因って何なの？

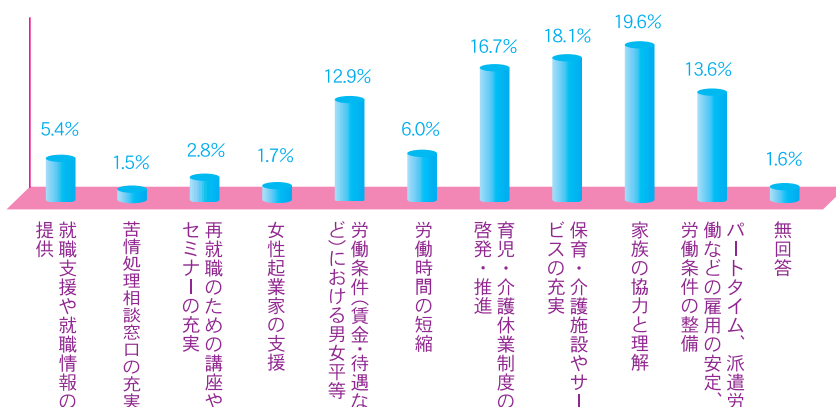
- ・結婚しない男女の増加、晩婚化。
 - ・生活形態の変化、多様化。
 - ・母親への責任過重、仕事と子育ての両立負担。
 - ・子育てをしながらの働きやすい職場が少ない。
 - ・将来的な社会・経済的不安を抱いているため安心して子どもを産めない。
- など、上記の他にも様々な要因があるとされています

●このまま少子化社会が進むとどうなるの？

- ★人口は減少しており、それによる労働力の減少・消費市場の縮小による経済への影響が懸念されます。
- ★少子高齢社会はますます進行し、年金・医療・介護などの社会保障費の増加により若年層の負担が増大します。

●少子化社会って悪いことばかりで良いことはないの？

- ★自給率の上昇……日本の食料自給率は低く、人口減少により食料問題が緩和される…。
- ★環境の改善……一人当たりのエネルギー消費量が減るため、自然環境・社会環境が改善される…。
- ★受験競争の緩和……受験競争が緩和され、少数による一人一人の個性に応じた教育を受けられるように…。
- ★就職率の上昇……労働力人口の減少により就職率は増加する…。



家庭と仕事の両立のためには

五所川原市民に「結婚や出産、子育てなどに関わらず、女性が仕事を続けるためには、どのような支援が必要だと思いますか？」とアンケート調査を行ったところ、女性が仕事を続けていくためには、何と云っても「家族の協力と理解」が必要だと感じているという結果となった。

(平成18年五所川原市民アンケート結果より)

～五市花子さんの悩みを一緒に考えてみましょう～

花子さんは、結婚2年目の会社員です。そろそろ、子どもが欲しいと考えています。でも、花子さんは子育てに対して、色々な不安を抱えています。

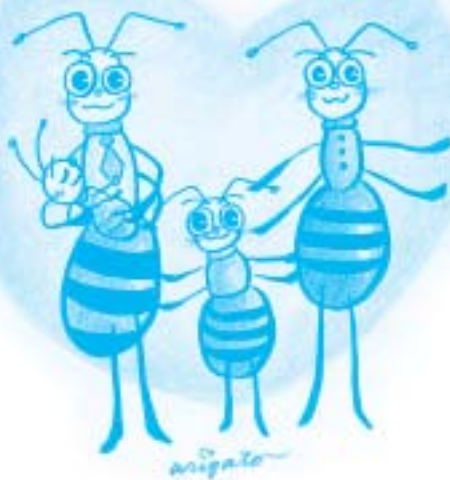
もし私が妊娠したと知ったら、職場の上司や仲間はどう思うかしら？子育てしながら勤務できるかしら。



今の仕事は大好きだし、出産後も仕事は続けたいな。子どもの教育費もかかるだろうし、私も働かないとね。

子育てに仕事、それに家庭と、うまく両立できるかしら。

親ばかりにも頼れないし、夫の協力も必要だわ。



女性が子育てをしながら働くためには、職場の人の理解と協力、職場環境の整備が必要です。そして、何よりもパートナーとの協力が欠かせません。「男性は仕事、女性は家庭」という考えにとらわれることなく、男女が互いに尊重し合い、仕事や家事・育児に参画していくことが、豊で安心して暮らせる社会を築く上で大切なのです。

知っていますか

子どもが産まれるとき

●出産育児一時金

出産に直接かかる費用を軽減するために、加入している健康保険から支給されます

●出産費資金貸付制度

上記の「出産育児一時金」は出産後に申請するので、実際に支給されるまでには時間がかかります。出産前にあらかじめ、一時金の8割を限度に無利子の貸付を行い、出産にかかる金銭的な負担を減らす制度です。

●出産育児一時金受取代理制度

医療機関等窓口で出産費用を直接支払うことなく、加入している健康保険から直接医療機関等に出産育児一時金を支払う制度です。

※加入している健康保険の種類により制度の名称や金額などが異なる場合があります。詳細は、ご自分が加入している健康保険の担当窓口まで、お問い合わせください。

子どもが産まれたら

●児童手当

児童の健全な育成のために、養育者に手当を支給する制度です。国籍に関係なく、日本に住所がある0歳以上12歳までの児童を扶養している者に支給されます。

五所川原市役所ホームページ URL http://www.goshogawara.net.pref.aomori.jp/15_jido/jido.html にて詳細をご覧ください。

五所川原市民生部
市民課市民係（内線207）

おじゃまして〜す！

～五所川原に夢を求めて～

若生さんは結婚してからも、地元の神奈川県で歯科医として働いていました。

『結婚後、「今の私に何ができるのか？」と心の中に漠然とした疑問を抱えながらも毎日淡々と暮らしていました。そんな中、患者さんは歯を失ってから、初めてその大切さに気付くのだなと思い、歯を失った後の治療だけでなく、失わないように手助けしてあげたいと思うようになりました。そのためには、歯科医として新しい知識と技術を修得することが必要なのだと思いました。』

知り合いの先生から「青森県の五所川原市に予防歯科に熱心に取り組んでいる先生が居るから、一度訪ねてみるといいよ。」と、津島歯科診療所（大町9番地）を紹介され、見学がてらに訪ねてみることにしました。自分の夢を叶えるためとは言っても、故郷とは遠く離れた北の地へ移り住み、働きながら一人で暮らすということに対して、不安がありました。しかし、津島歯科を訪ね、副院長先生のお話を伺っているうちに、予防歯科に熱心に取り組む先生の姿勢に強く感銘を受け、「ここで是非働きたい！」と思ったのです。

私が勉強するために「単身で県外に働き出たい」と夫に伝えると、案の定、反対されました。でも、この経験は今後の人生において絶対に活かされる！30代の今、この時期しかチャンスはない！と思っていたので、夫に私の思いを理解してもらえるよう、とことん二人で話し合いました。半年ほどすると、夫は私の生き方を認めてくれました。こういったご縁で、私は五所川原市に来ることになったのです。院長先生の職人技と副院長先生の現代歯科医療を同時に学び、ここで学んだ事を将来私の地元に戻元したいんです。』

と笑顔で語る若生先生は、イキイキと自分の夢を実現中です。先生、がんばれ!!



神奈川県生まれの30代。

『自分の夢を追っているうちに、不思議と五所川原に引き寄せられていました。』と語る若生美智代さん

●おすすめBOOKS●



『産まない理由 今まで誰にも言えなかった私たちのホンネ』
(築石 かおり 著/
出版イースト・プレス)

『本当に、なぜ産まないんだろうか…?』
真実が知りたいあなたへ

産まないのには理由がある。本当は産みたくても、様々な理由により産めなくなっているのがある。

本書は女性たちの生の声から構成されたルポルタージュである。出産だけでなく、結婚や仕事など女性の生き方そのものを見直すことが出来るおすすめの1冊。



『父親だからできること 威張らない、媚びない、子育ての秘訣』
(毛利 子来 著/
出版:ダイヤモンド社)

現代の子育てに悩むお父さんたちに贈る
育児参画のお助け本

ベテラン小児科医たぬき先生が、「父親のあり方」を伝授。仕事と家庭、しつけや教育問題への対応の仕方、更には夫婦の葛藤があった時に子どもにはどう接するべきか？まで、お父さんたちの様々な悩みに対応。子育てに悩むお父さんのためのお助け本。

▼編集スタッフ募集▲

五所川原市男女共同参画情報紙「さんかく」の編集メンバーと一緒に、情報紙の企画・編集をしてみませんか？

- 五所川原市在住の方。年齢・性別は問いません。
- 電話・FAX・Eメールなどで、五所川原市 男女共同参画室までお申し込み下さい。

編集後記

『自己優先主義、社会環境、教育事情、経済的な問題などから、子どもを産み育てる事が人生設計図に組み込まれなかつた、後まわしになっている。そんな環境の中でも、夫婦が家庭の未来予想図をどう描き、実現できるかを理解しあう事が大切なのでしょうね。』

(by dream)

『子どもには
出会えてホントに
良かったよ』(by きなこ)

●編集スタッフ

境谷 葉子・佐藤 広美
津島 弘美・福士千恵子
三由 恵子

●発行

五所川原市 男女共同参画室
〒037-8686
五所川原市字岩木町12
TEL: 0173-35-2111
(内線462・463)
FAX: 0173-35-3617
Eメール: danjo@goshogawara.
net.pref.aomori.jp

みな様のご意見、ご感想を
お待ちしております。